

# 平成 29 年度末評価



広島県立加計高等学校

# 目次

- 1 平成 29 年度自己評価シート … 1  
(年度末評価)
- 2 平成 29 年度自己評価シート … 4  
(年度末評価まとめ)
- 3 平成 29 年度学校関係評価シート… 5  
(年度末評価)

平成 29 年度自己評価シート(年度末評価)

校番	20	学校名	広島県立加計高等学校	校長氏名	小田 均	全・定・通	本・分
----	----	-----	------------	------	------	-------	-----

学校経営目標							
	達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部署		
1 生徒一人一人に生きる力を育む学校							
① 確かな学力を育成し、進路目標を実現できるよう支援する。							
	<p>■キャリア教育を推進し明確な進路目標を掲げさせるとともに、基礎・基本を徹底し進路目標を実現できる学力を身に付けさせる。</p>	<p>ア 学年ごと及び全校での進路検討会議等をおして情報を共有し、個別指導を徹底する。 イ 講師を招聘して、キャリア教育に関する講演会等を開催する。 ウ 国語、数学、英語を中心に、少人数・習熟度別クラス編成の授業を実施する。 エ 計画的に宿題・課題を提供するとともに、小テストやノート点検等で個々の生徒の学習状況を確認して指導する。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教職員での進路検討会議を実施し、3年生全員に個別受験指導担当者を割り当てて指導した。</li> <li>起業をテーマに講師を招いて9月に進路講演会を実施し、高校生ビジネスプラングランプリに応募した。</li> <li>進路通信を通して、必要な情報を適宜発信した。</li> <li>国語、数学、英語の授業を中心に、少人数・習熟度別クラス編成の授業を実施し、生徒の学力を伸ばすため、きめ細かい指導を行った。</li> <li>計画的に宿題・課題を提供するとともに、国数英の小テストや定期考査ごとのノート点検等を行い、個々の生徒の学習状況を確認して指導した。</li> </ul>	進路指導 教務 教科		
	<p>■学習環境を整え、自ら学ぶ意欲と学習習慣を身に付けさせる。</p>	<p>ア 進路対策講座、夏季・冬季補習、学習合宿等を実施する。 イ 全員模試を年3回以上実施する。 ウ 定期考査ごとに居残り学習会を行う。 エ 家庭学習時間調査を年6回実施し、課題のある生徒には個別指導を行う。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏季補習を夏季休業中全日程で、夏季集中セミナーを就職及び進学希望者とともに実施した。</li> <li>全員模試を計画どおり実施している。</li> <li>推薦・AO対策に、個別指導を実施した。</li> <li>居残り学習会を計画どおり実施することにより、学習時間の増加につなげた。</li> <li>家庭学習時間調査を計画どおり実施し、家庭学習時間がとれていない生徒に対しては、懇談や面接時に指導をした。</li> </ul>	進路指導 教務 担任		
② 心と体を鍛え「誠実・自主・気魄」を涵養する。							
	<p>■規範意識等を高め規律ある学校生活を確立させるとともに、教育相談等を通して生徒一人一人が安定した高校生活を確立できるよう支援する。</p>	<p>ア 月ごとの全校集会で服装・頭髪検査を実施し、違反者等に対して事後指導を行う。 イ 授業規律を確立するために、年度当初に「加計高授業規律」を決めて全員で徹底する。 ウ 課題に対して早期に対応できるよう、生徒面接を充実するとともに、スクールカウンセラーの活用促進を図る。 エ 学期ごとに生徒連絡会議を持ち、生徒に関する情報を共有し、組織としての対応を強化する。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎週、週の初めに生徒会執行部が中心となって自主運営の生徒集会を行い、生徒の自治力を高めた。</li> <li>毎月1回、全校集会で服装・頭髪検査を行い、身だしなみに対する意識啓発を行った。</li> <li>授業規律を確立するため、年度当初に「加計高授業規律」を決定し、教室掲示するとともに継続的な指導を行った。</li> <li>「加計高授業規律」に基づき、挨拶の徹底を図った。</li> <li>日常の生徒への声かけを大切に、教員から意識的に声をかけることを積極的に行った。</li> <li>学期始めに、学年ごとの個人面接を行い、生徒理解に努めた。</li> <li>生徒指導部が中心となり、教員間の情報交換・連携を密にし、組織的な対応を常に意識して行った。</li> <li>職員会議等において、生徒指導研修を行った。</li> </ul>	生徒指導 教務 担任		

<p>■部活動や生徒会活動等の活性化を図り、集団の中で責任ある行動をとる態度を育成する。</p>	<p>ア 生徒会執行部や各部部員による新入生や中学生に対する啓発活動を強化する。 イ 主な生徒会行事ごとに事後アンケートを実施し、次年度の改善点を整理する。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が主体となって企画・立案・運営を行えるよう生徒会の運営の見直しを行った。</li> <li>中学生との集団宿泊研修の中で、加計高の取組や魅力について、生徒自らが積極的にPRを行った。</li> <li>委員会を定例化し、活動内容や行事ごとの課題の意見交換を行い、改善点の整理を行った。</li> </ul>	生徒指導
<p>■体力の向上を図り、健康を維持し、気魄を涵養する。</p>	<p>ア 体育の授業で補強運動を行う。 イ 体育の授業全体での運動量を増やす。 ウ 体育の授業で柔軟性を向上させるためのストレッチを行う。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業開始時に体カトレーニングを行い、体力向上の意識啓発を行った。</li> <li>運動を楽しみながら行えるよう、2人組やゲーム的な要素を取り入れ、意欲的に取り組めるよう工夫を行った。</li> </ul>	保健体育
③ 国際的視野を広げ、コミュニケーション能力を身に付けさせる。				
<p>■海外の姉妹校等との国際交流活動に積極的に取り組み、様々な価値観を知り、自己と他者をともに大切にすることを育成する。</p>	<p>ア 海外の姉妹校等との国際交流活動を積極的に実施する。 イ 本校及び地域のよさを海外に情報発信する。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>6月に米国ハワイ州のホノカア高校の生徒2名、引率教諭2名が来校し、互いの文化等について紹介するなど、交流を深めた。また、8月には本校から3名の生徒がホノカア高校に短期留学をし、安芸太田町や加計高校のことを紹介した。</li> <li>10月には、韓国の姉妹校からの訪問団を受け入れ、寮生、国際交流講座選択者を中心に交流を深めた。</li> </ul>	教務

【評価結果の分析】

- ・キャリア教育を推進し、明確な目標を掲げさせ、基礎・基本の定着を徹底させることにより、進路目標を実現できる学力を身に付けさせるための取組を計画的に進めた。
- ・個々の生徒の進路実現を図るため、学習習慣を身に付けさせる指導を継続するとともに、これまでの個別受験指導を、より一層充実させる必要がある。

【今後の改善方針】

- ・個別受験指導の徹底を図るため、国公立大学等を訪問して得た情報により、推薦入試対策等の指導法を研究し、それを基に、個別受験担当者及び必要な教科指導者が連携して指導に当たる。

2 保護者・地域から信頼される学校				
① 教職員の指導力や職務遂行能力の向上を図る。				
<p>■「授業づくり」を進め、指導力の向上を図る。</p>	<p>ア 各学期に、シラバスに基づいた説明を行う。 イ 外部講師を招聘しての授業づくり研修及び公開授業等を年複数回実施する。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度初めと必要に応じた時機にそれぞれの授業者から生徒にシラバスに基づいた説明を行った。</li> <li>「協調学習」を取り入れた授業づくり研修を11月と1月に、11月には公開研究授業を実施する計画である。</li> </ul>	教務
② 危機管理を徹底する。				
<p>■不祥事防止意識を高揚し不祥事ゼロを継続するとともに、安全点検を徹底し危険箇所等を早期に発見し整備する。</p>	<p>ア 年度当初に、服務規律に係る全体研修を企画・実施する。 イ 「不祥事防止チェックリスト」を活用した面談を年2回実施する。 ウ 安全点検を年3回以上実施する。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度当初に服務規律に係る全体研修を開催するとともに、タイムリーな情報提供と未然防止に努めた。</li> <li>「不祥事防止チェックリスト」を活用した面談及び安全点検を計画的に実施した。</li> </ul>	管理職事務室

【評価結果の分析】

- ・年度当初に、服務規律に係る研修会を企画し、実施した。また、日常的に不祥事防止の話題に触れ、誰にでも起こす危険性があるという認識に立つよう促した。不祥事根絶の意識を高くし、不祥事ゼロを継続するとともに、安全点検を徹底し、危険箇所等を早期に発見し整備していきたい。

【今後の改善方針】

- ・「協調学習」等を活用した研究授業を、全教職員が学期に1回実施できるように計画し、生徒の主体的で深い学びを促す授業展開となるよう授業改善を図る。

3 地域とともに歩む学校				
① 地域と連携し、開かれた学校づくりを推進する。				
<p>■保・幼・小・中・高・大連携を推進し、地域の人材育成に貢献する</p>	<p>ア 地元中学校とは学期に3回以上、近隣中学校とは学期に1回以上連携を行う。 イ 子ども園及び小学校との連携を強化する。</p>	A	<p>・学校訪問による連携を実施した。 ・地元小・中学校及び地元商工会との連携によるキャリア・スタート・ウィーク&amp;インターンシップ、小・中・高合同による清掃ボランティア活動、地元子ども園での保育実習、小学校や中学校からの高校訪問受け入れなどを実施し、地域の人材育成を進めた。</p>	教務管理職
<p>■積極的に広報活動を行い、学校の魅力を発信し、地域内外の生徒・保護者にとって「行きたい学校」「行かせたい学校」となる。</p>	<p>ア 学校の魅力づくりに生徒自らが主体的に加わる。 イ 広報誌「五輪の峰」を月毎に作成し発行する。 ウ ホームページを常に更新し、新しい情報を発信する。 エ マスコミに積極的に情報提供し、取材を働きかける。</p>	A	<p>・「五輪の峰」を各学期末に発行し、近隣の小中学校、関係機関及び安芸太田町内全戸に配布した。 ・地域の広報誌「あきおおた」に加計高校の記事を提供し、情報発信を行った。 ・今年度も、ホームページをリニューアルし、より閲覧しやすいレイアウトにした。頻繁に更新し、常に新しい情報を発信した。</p>	教務各部管理職
② 地域の「もの・ひと・こと」に学び、地域の発展に寄与する。				
<p>■外部指導者を招聘するなどして地域の教育力を生かした学校教育を展開するとともに、ボランティア活動等を通して積極的な地域貢献を行っていく。</p>	<p>ア 総合的な学習の時間や学校設定科目等の授業に、外部講師を招聘する。 イ 学校行事等に地域の人材を招聘する。 ウ 生徒会活動の一環として、地域行事への参加や環境美化等のボランティア活動を推進する。 エ 専門コースの学習の一環として、子どもや高齢者を対象とするボランティア活動を推進する。</p>	A	<p>・総合的な学習の時間や学校設定科目等の学習において、外部講師を招聘し、専門的な指導をもらい、生徒に実習を通して学ばせたり、知識を深めさせたりした。 ・地域の指導者に来校していただき、ゲートボールや探究活動の指導を受け、学校とは異なる新たな視点を得るとともに地域への関心を高めることができた。 ・生徒会が中心となり、毎月1回の校外清掃ボランティア活動を実施し、地域貢献を行った。 ・生徒に向けてのボランティア募集活動、活動指示など、生徒会執行部が中心となって行えるようになり、地域ボランティアについての関心がさらに高まった。</p>	教務生徒指導教科

【評価結果の分析】

- ・地域と連携し、開かれた学校づくりを推進した。
- ・地域の人材に恵まれ、外部指導者として本校の総合的な学習の時間や学校設定科目の授業に招聘し、学びの質を高めていただいている。
- ・関係者から、本校のマスコミに対する情報発信に高い評価を得ている。本校生徒の活躍を報じるニュースは本校の良いPRになっている。これまでに、新聞・テレビに記事が13回取り上げられている。

【今後の改善方策】

- ・学習、学校行事、部活動、ボランティア活動等に生徒自らが主体的に参加し、学校の魅力づくりや魅力の発信に生徒自身も意欲的であるが、広報誌「五輪の峰」の記事の作成については部分的である。生徒が作成した記事の割合が増えるよう指導する。

## 平成29年度自己評価シート(年度末評価まとめ)

校番	20	学校名	広島県立加計高等学校	校長氏名	小田 均	全・定・通	本・分
----	----	-----	------------	------	------	-------	-----

## 1 評価結果の分析

## (1) 生徒一人一人に生きる力を育む学校

- ・キャリア教育を推進し、明確な目標を掲げさせ、基礎・基本を徹底させることにより、進路目標を実現できる学力を身に付けさせるための取組を計画的に進めた。
- ・個々の生徒の進路実現を図るため、学習習慣を身に付けさせる指導を継続するとともに、これまでの個別受験指導を、より一層充実させる必要がある。

## (2) 保護者・地域から信頼される学校

- ・年度当初に、服務規律に係る研修会を企画し、実施した。また、日常的に不祥事防止の話題に触れ、誰にでも起こす危険性があるという認識に立つよう促している。不祥事防止の意識を高くし、不祥事ゼロを継続するとともに、安全点検を徹底し、危険箇所等を早期に発見し整備していきたい。

## (3) 地域とともに歩む学校

- ・地域と連携し、開かれた学校づくりを推進した。
- ・地域の人材に恵まれ、外部指導者として本校の総合的な学習の時間や学校設定科目の授業に招聘し、学びの質を高めていただいている。
- ・関係者から、本校のマスコミに対する情報発信に高い評価を得ている。本校生徒の活躍を報じるニュースは本校の良いPRになっている。これまでに、新聞・テレビに記事が13回取り上げられている。

## 2 今後の改善方策

## (1) 生徒一人一人に生きる力を育む学校

- ・個別受験指導の徹底を図るため、国公立大学等を訪問して得た情報により、推薦入試対策等の指導法を研究し、それを基に、個別受験担当者及び必要な教科指導者が連携して指導に当たる。

## (2) 保護者・地域から信頼される学校

- ・「協調学習」等を活用した研究授業を、全教職員が学期に1回実施できるように計画し、生徒の主体的で深い学びを促す授業展開となるよう授業改善を図る。

## (3) 地域とともに歩む学校

- ・学習、学校行事、部活動、ボランティア活動等に生徒自らが主体的に参加し、学校の魅力づくりや魅力の発信に生徒自身も意欲的であるが、広報誌「五輪の峰」の記事の作成については部分的である。生徒が作成した記事の割合が増えるよう指導する。

## 3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入する。)

- ・「協調学習」等を活用した研究授業について、小学校や中学校とも連携を図る。
- ・生き生きとした本校生徒の姿を発信し、学校PRにつとめ生徒募集につなげる。

平成 29 年度学校関係者評価シート(年度末評価)

平成 30 年 3 月 26 日

校番	20	学校名	広島県立加計高等学校	校長氏名	小田 均	全・定・通	<input checked="" type="checkbox"/> 本・分
----	----	-----	------------	------	------	-------	---

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	A	生徒の状況を的確に把握し、目標が定められている。 具体的な目標で適切である。 明確で分かりやすい目標であり、達成したイメージを持つことができる。そのため、指標、計画の設定に連動して、目標達成のための取組を全教職員で共通イメージを持つことができる。 計画についても具体的な着手、実行しやすいものである。 明確な達成感が得られる。 諸設定事項も的確であり、成果確保に関係者の努力が伺われ、良好といえる。
計画の進捗状況の評価の適切さ	A	進捗状況を正しく評価していると思います。 適切である。 評価結果から、11 項目中 9 項目が A であり、残り 2 項目も B であり、評価も適正である。 現状の人員から、進捗状況評価は十分対応されている。今後、評価手法により、客観性を持たせる等、一層の充実を期待する。
目標達成に向けた取組の適切さ	B	学校側の目標に向けた取組が理解できます。今後も目標に向けて取り組んでほしい。 校長先生と教頭先生の強力なリーダーシップのもと、職員全員が真剣に取り組んでいる。 学力向上、進路目標の実現、規範意識の確立、国際交流、学校の魅力発信、ボランティア活動等の取組は適切で、効果的である。 授業づくり、協調学習の推進については、小・中学校の研究推進のためにも、研修に参加する機会をいただければ幸いです。家庭学習の定着は、小・中学校も共通の課題であり、中学校でも加計高校の取組を踏まえながら改善を図りたい。 取組の把握は、より客観的観点が必要では。例えば、生徒、保護者の主体的評価を加える等、工夫があれば良い。
評価結果の分析の適切さ	A	地域を重視した教育の実践が伺える。 適切である。 評価結果の分析と生徒や学校の状況とよく合致しており、適切である。 地域人材や外部指導者等との連携が一層強化・充実されることを望む。 ボランティア活動については、中学校や地域からの評価・認知度も高い。
今後の改善方策の適切さ	B	地域とともにある学校として、今後とも努力してほしい。 適切である。 学力向上及び進路実現については、大きな実績を上げられている。次年度以降も、引き続き、家庭学習の定着や学習会の取組をお願いしたい。 協調学習の研究授業の実施について、小・中学校へ呼びかけもお願いしたい。 改善視点も的確で、短期的な方策については適当といえる。今後、長期的な方策を樹立し、充実化の戦略を学校関係者や自治体と共有、協働できるシステムを確立されるとありがたい。 今年度の国公立大合格者増の成果から、十分評価できる。
総合評価	A	先生方の努力に感謝します。今後ともよろしく願います。 総合的に、計画の実現に向けて適切な経営ができています。 学校長の掲げた教育目標とめざす生徒像に、今の加計高校生が自らの目標として進んで行こうとしており、それを支える教職員の組織力が機能している。 生徒一人一人の個性を生かした進路実現に、今年度までの成果が示されている。 地域への貢献活動が根付き、加計高校への信頼感を高めている。 校風改善の成果は、生徒の日常姿勢に表れる。地域からの評価は高まっている。進路先も年々充実化が見られ、関係者の努力に頭が下がる。今後、小規模校の特徴を一層生かしたオンリーワン校の現出に期待したい。 より一層、中高連携を深め、特に、保護者の当校に対する正しい認識をもたれるよう PR や啓発に努められたい。